



水戸では3月28日に桜が咲いた。昨年より2日、平年より5日早い。開花は「標本木」によって観測され、水戸の標本木は1986年以来、県三の丸庁舎の一隅にある。気象庁は「開花」とは花が5～6輪以上、満開とは約80%以上と定めている。

桜のつぼみは、真冬の低温で「休眠打破」が起きて膨らみ始め、開花はその後の気温に依存する。開花が線状となって前進することから「桜前線」と呼ばれ、日本列島を北上・縦断する。北上を平年値で見れば、福岡が3月23日、東京が3月26日、仙台が4月11日、札幌が5月3日、釧路が5月17日と2か月近い長旅である。平均



桜を求めて潮来の「長勝寺」に立ち寄った。ちょっと肌寒かったが、満開の花の彼方には雲が一面に広がり、文字どおり「花曇り」だった。花曇りは桜が咲くころの曇り空を指す言葉。雲の具体的な状態は気象予測にとっても極めて重要であるため、種類や高さなどの観測および通報形式は国際的に統一されている。

天気予報用語によれば、晴れや曇り具合は「雲量」を用いて表現する。雲量とは全天を10とした時に雲で覆われている割合を指す。「快晴」は1以下、「晴れ」は2から8、「曇り」は9以上。「晴れときどき曇り」という予報の場合、同じ晴れでも

2016.4.3



「気象コンパス」主宰

古川武彦

桜前線

スピードはおおよそ20キロだ。

前線といえば「寒冷前線」は低気圧の中心から南西に伸び、前線を挟んで西側では冷たい北寄りの風が、東側では暖かい南寄りの風が吹く。前線が通過する際はまず強い南西の風が吹き、その後は一転して北西の風が吹く。前線の特徴は前方の空気に急速に潜り込み、押し上げながら南下するので、通過時は積乱雲などの激しい対流が起きやすく、しばしば雷や雹（ひょう）を伴う。突風も起きやすい。春先はまだ南北の温度差が大きいので前線も活発で、花に嵐となりかねない。

気象庁は開花予想を2010年に廃止したが、もともと予測は気象庁の義務ではない。しかし現在も桜や梅などの観測はウグイスの「初鳴」などと共に「生物季節観測」として継続されている。(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)

2016.4.10



「気象コンパス」主宰

古川武彦

花曇り

かなり幅があり、曇りでも日が差すこともある。さらに曇りでも雲の高さによって「本曇り」「高曇り」「薄曇り」と区別される。本曇りは下層の雲量の中・上層雲よりも多い場合、「高曇り」は中層雲が多い場合である。薄曇りの場合は上層雲が多い場合で建物などの影が見られる。

ちなみに雲の種類・雲量・高さ・流れの向きと速さは気象台の職員が目視で行うが、無人の観測所では簡略化された天気を「天気計」によって自動的に観測している。

今年は「花冷え」のような低温の日が多く、その分だけ花持ちもいい。花見にはやはり青空よりも「巻層雲(上層雲)」や「高層雲(中層雲)」で覆われた花曇りが似つかわしいかも。花曇りは夜桜見物の寒さも和らげてくれるはずだから。まもなく葉桜へと季節は進む。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)